

3. 工事中の濁水処理について

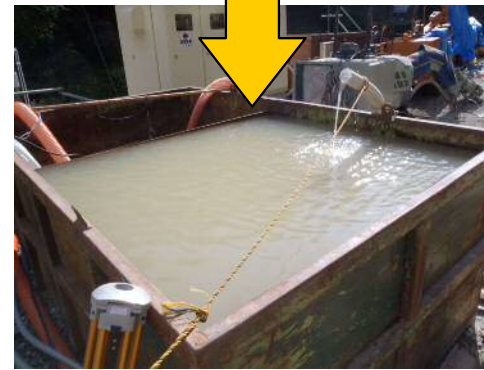
工事中の濁水処理については、以下のような処理プラントを設置し、基準値以下となるよう処理したうえで放流することとしています。現在進めている仮設備(トンネル)工事においても同様の処理を実施しており、流水型ダム工事では、これが大規模になった設備となります。工事中は水質のモニタリングを継続的に行い、測定データについては漁協に報告するとともに定期的に公表していきます。

濁水処理プラント (処理の流れ)



施工中の仮設備(トンネル)工事のプラント写真です。これは30m³/hの設備ですが、流水型ダム工事では、100m³/hの設備となります。

工事現場からの排水(原水)



沈砂槽
原水を溜め土砂を沈殿させます

凝集攪拌
沈殿促進剤を使い浮遊物を凝集分離します

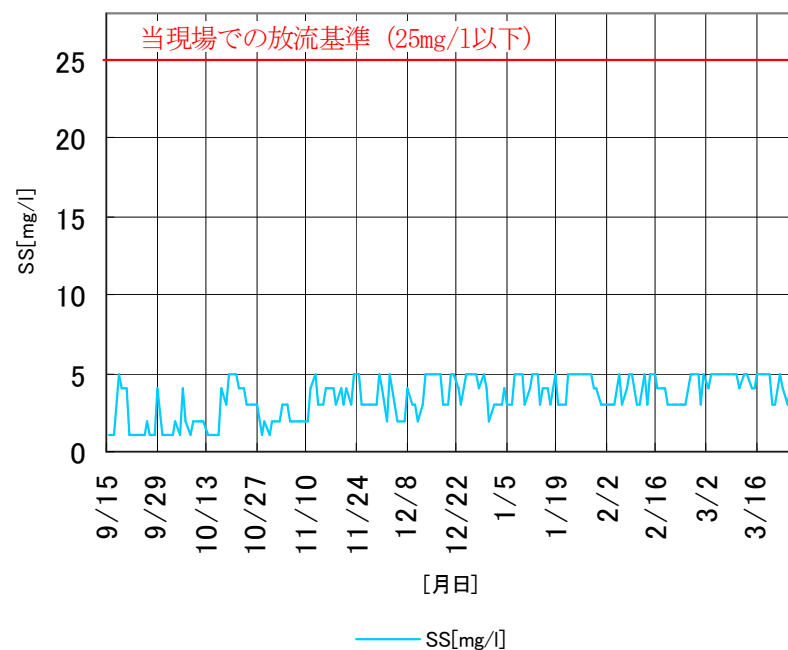
中和処理
炭酸ガスにより中和します



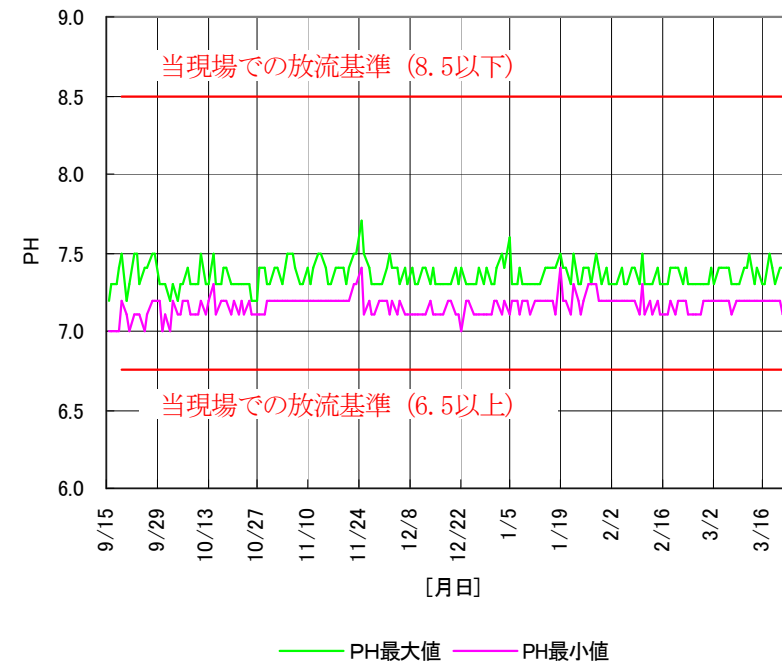
処理水槽
水質を確認し放流します

【参考】 濁水処理後の水質データ (仮設備 (トンネル) 工事のデータ)

【 浮遊物質(SS)の1日当たりの最大値 】



【 PHの最大値・最小値 】



SS : 200mg/l
PH : 9.5

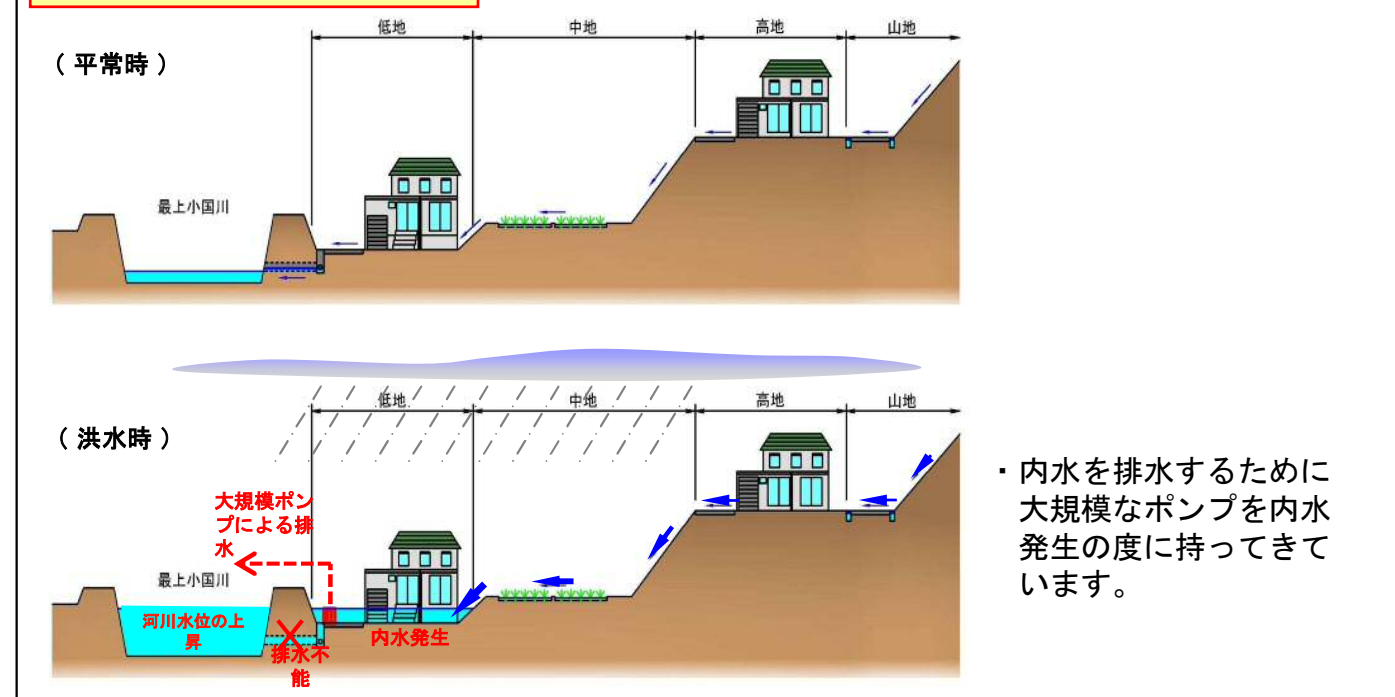


SS : 3mg/l
PH : 7.3

4. 赤倉地区の内水被害対策について

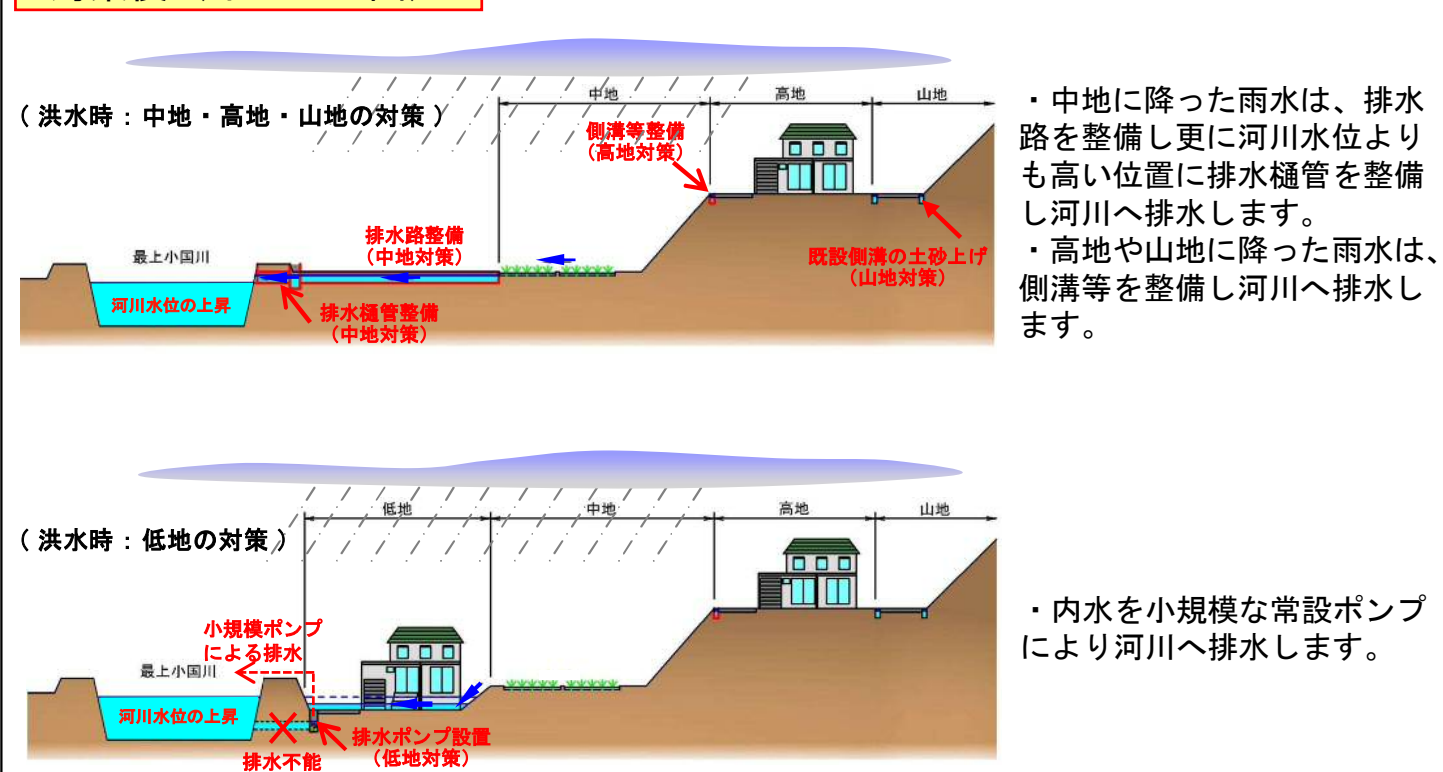
- ・ 内水被害は、最上小国川の水位上昇時に、沿川に降った雨を最上小国川に排水できないことにより発生します。
- ・ 赤倉地区の内水被害対策は、平成21年より、地元住民、最上町、山形県が「内水対策事業連絡調整会議」を開催し、最上小国川右岸側の流域を低地、中地、高地、山地に分割し、対策の役割を決定しました。現在、県は役割に従い、排水施設の整備を実施中です。また、左岸側の対策についても同会議で現在検討中です。

現状（イメージ図）

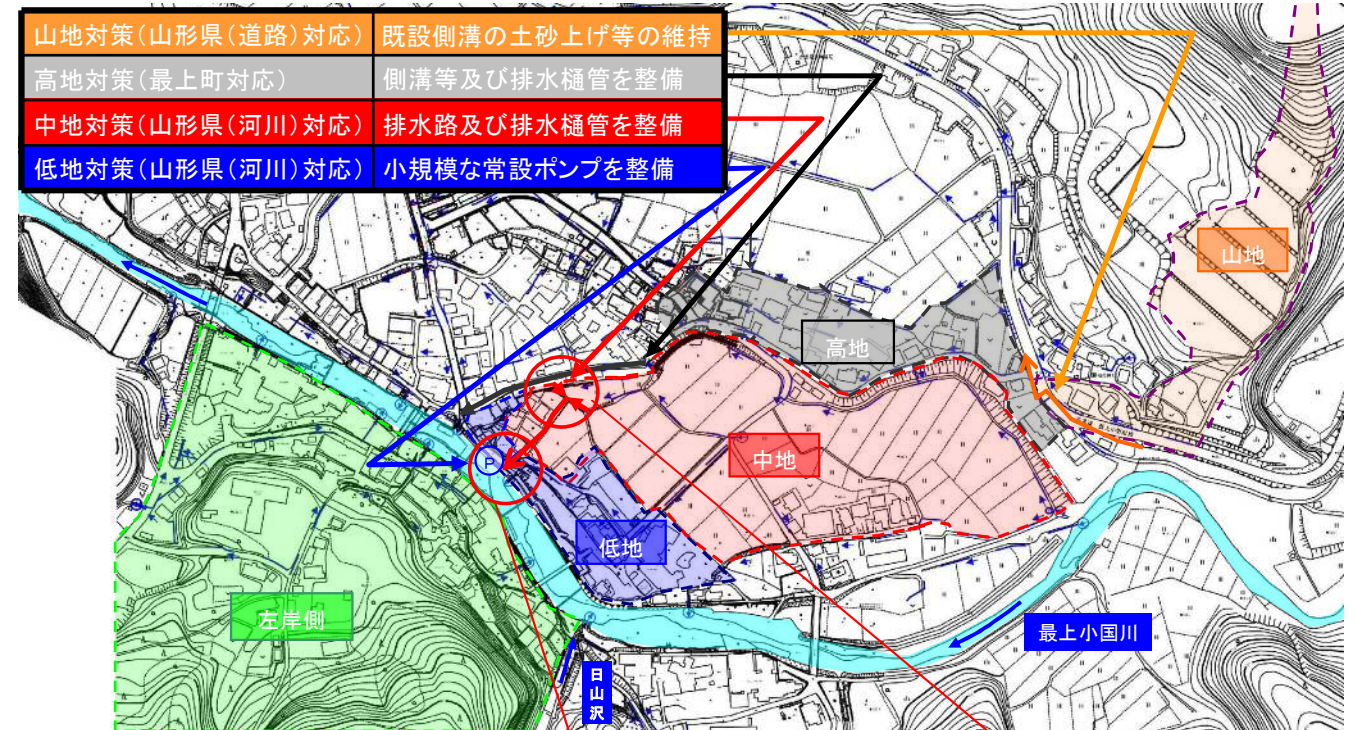


対策

対策後（イメージ図）



【内水被害対策図】



【対策の効果】 (H25.7.8出水時)

平成25年7月8日は赤倉地内では24時間雨量113mm、時間最大雨量39mmを記録し、赤倉水位観測局では最高水位がはん濫危険水位1.5mに迫る1.31mに達しました。
新設した水路および排水樋管によって内水被害の発生が食い止められました。



ゲートを押し上げて、水路に集まった雨水を川へ排水している。
ゲート全開により、中地の雨水は低地へ流れることなく、全量新設水路へ導水している。

